

世間が切り替わる前に… マスク緩和、卒業式巡り賛否両論

2/10 毎日新聞



はかま姿で記念撮影する卒業生たち＝福岡市西区の九州大で2022年3月23日午前9時半、徳野仁子撮影

「ポストコロナ」への一步となるか――。今春の学校の卒業式で、子どもや教職員が新型コロナウイルス対策のマスクなしでも出席できるようになった。社会全体のマスク着用緩和（3月13日）に先駆けての措置となるが、学校現場では賛否が割れている。

文部科学省が学校向けに作っている新型コロナウイルスの衛生管理マニュアルには「身体的距離が十分とれない時はマスクを着用すべきだ」と明記。卒業式では、マスクの着用などのせきエチケットを推奨し、式典時間を短くしたり、出席する保護者を最小限にしたりするな

どの工夫を求めている。

岸田文雄首相は10日、視察先の埼玉県内の小学校で、小中高校などの卒業式について「児童生徒と教職員はマスクの着用をしないことを基本としたい」と新方針を表明。文科省も同日、新学期（4月1日）から学校教育活動で着用を求めず、それ以前にある卒業式も、式典全体を通じ「マスクなし」がベースとする通知を教育委員会などに出した。

通知は、卒業式で子どもや教職員がマスクを外せる具体的な場面として、入退場▽卒業証書授与▽送辞・答辞▽校長の式辞▽来賓の祝辞――などを例示。ただ、国歌斉唱や合唱、複数の子どもによる「呼びかけ」のときは、マスクを着けるとした。保護者や来賓については、マスク着用を引き続き求めるが、出席の人数制限は不要としている。

健康上の理由でマスクを着けられなかったり、重症化リスクの高い高齢者が家族にいるなどして着用を望んだりする子どももいるため、教職員に対し脱着の無理強いや校内の差別につながらないように求めた。大学にも同様の通知を出した。

政府の緩和方針に対し教委や教員の受け止めはさまざま。「定着したマスク着用をこの時期にひっくり返せば、逆に反発が強まりかねない」と東京都大田区教育委員会の担当者は気をもむ。区立小中学校では3月中旬に卒業式が迫る。マスクを外すのは卒業証書の授与や記念撮影に限り、生徒代表のあいさつを減らす方向で準備を進めている学校もある。だが、今回の緩和で「（マスク着用という）基本的な対策を取らなくてよくなれば、『全て元に戻せるのではないか』という声が寄せられるかもしれない。プログラムの編成に影響しかねない」と話す。

また、板橋区立中学校のある男性校長は「世間が切り替わる前に、学校が先陣を切ってマスクの着用を緩和する必要があるのか。安全と言い切れないのに、外してくださいとは言えない」と疑問を呈する。

一方、練馬区教委は既に卒業式でも、ポストコロナの方向性を打ち出している。「式典は1時間以内」「校歌は斉唱しない」とする昨年までの感染対策を取りやめることができる。1月中旬に区立小中学校に通知。マスク着用以外はコロナ禍前と同じ式典を可能にした。区教委の担当者も、文科省から新方針が示されれば「通知に沿って対応する」と抵抗感はない。



卒業式のマスク着用

現行

マスクの着用を含むせきエチケットを推奨
文部科学省「新型コロナに関する衛生管理マニュアル」より

▼

今春

子どもと教職員は、国歌斉唱や合唱などを除き、マスクを着けないのが基本

着用を望む子どももいるため、脱着は無理強くない

換気などの感染対策は講じる

ないとする。

2月中旬に卒業式を控える大阪府内のある私立高校では、校歌斉唱などではマスク着用を生徒らに求めるものの、卒業証書の授与などそれ以外の場面ではマスクなしで行う。政府が緩和方針を示す前から決めていたことで、校長は「コロナ対策を巡る学校の対応は見えない共通認識を探すことと似ている。対応に迷う学校関係者にとっては、今回の政府方針が判断の指針になると思う」と歓迎した。

また、ある都道府県教委の担当者は、マスク着用のあり方を巡り、社会に分断も生まれる中、学校が個人の判断で着用を決めてよいと認めることで「子ども同士が相手の判断を尊重できるように指導できれば教育的なメリットがあるのでは」と前向きに

捉えている。

京都市内の高校に通う男子生徒（18）は3月1日が卒業式だ。2020年度の入学以来、高校生活の全てをコロナの行動制限下で送っただけに、40代の母親は「友達ともマスク越しでしか話すことができない3年間で、ずっとかわいそうだと思っていた」と学校でのマスク緩和を望んでいた。

ただ、3月は大学受験シーズンの最中でもあり、国立大は前期日程の合格発表を3月6日以降に控える。この男子生徒も卒業式時点では進学先が決まっていないため、受験勉強を続ける必要があるという。母親は「コロナだけでなく、インフルエンザの感染も怖い時期で、結局は着けることになると思う。年度初めや社会全体の移行に合わせてルールを緩和するなら理解できるが、なぜ卒業式のタイミングなのか、ちゃんとした説明がほしい」と言う。

名古屋市守山区の自営業の女性（48）は昨年あった長男（16）の中学校の卒業式で、校歌は録音を流すなど飛沫（ひまつ）感染するような場面はなかったのに、記念撮影でもマスクを外せなかったという。「果たして本当にマスクは必要だったのか。そうした異様な雰囲気から脱せられる」と期待する一方、「マスクを外す子ども、外さない子どもが分かれてしまい、『外していた子に感染させられた』といったトラブルが起きないか心配だ」と話した。【深津誠、李英浩、国本愛、川瀬慎一郎、隈元悠太】